

実証候補地点の推薦に係る考え方

1. 推薦箇所選定に係る基本的な考え方

- 福島新エネ社会構想においては、水素を有効活用するためのシステムの構築について、福島県内において実証を行い、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年までに運転を開始することとされている。
- このため、推薦箇所については、2020年の運転開始までに着実に整備が可能となる箇所を選定することが重要である。
- また、本構想は、再生可能エネルギーから水素を「作り」「貯め・運び」「使う」未来の新エネルギー社会実現に向けたモデルを福島で創出することを目指すものであり、実証を踏まえた将来の事業化等の観点からも選定を行う必要がある。
- このため、「再生可能エネルギー由来水素プロジェクト検討WG」において取りまとめられた技術的要件を踏まえ、①用地の状況、②インフラ整備の状況、③システム間の距離、④費用 の4つの視点から、各候補地を比較し、優位な候補地を推薦箇所として選定する。

2. 推薦地点の選定に係る視点

① 用地の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水素システムに関し、平成30年央までの間で可能な限り早期に着工できること ○ 太陽光発電に関し、平成29年9月から設計開始できること <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px; margin-top: 10px;"> <p>面積、高低差、地盤強度、各種支障に係る技術的要件を満たす用地提供の準備が整っている、又は、その予算措置がなされ、具体的な目処がついていること</p> </div>
② インフラの状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 技術的要件を満たす道路、水道、電力が整備されている、又は、必要な時期までに整備される予定があること
③ システム間の距離	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水素システムと太陽光発電システムが可能な限り近いこと
④ 費用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 用地の確保・利用に要する費用が可能な限り低廉であること

○水素システム

基本要件					
項目		要件・仕様			
面積		45,000 m ² (4.5 ha) (300 m × 150 m)			
スケジュール		2018年央までの間で可能な限り早期に着工			
用地条件					
分類	大項目	中項目	小項目	要件・仕様	必要時期
敷地外	インフラ	接道	幅・耐荷重・高さ	幅8m以上・工事/輸送車両が通行可能な動線が確保されていること	建設工事開始時
		水道	上水・下水・工業用水	(検討中) (工業用水/上水:約700m ³ /日+上水:約10m ³ /日)	建設工事開始時
		電力	種類・容量	特別高圧により最大負荷容量25MVA(検討中)を供給できること	システム試験・試運転調整開始2ヶ月前
		通信	通信方式・通信速度	(検討中)	(検討中)
敷地内	敷地	伐採・地盤改良	敷地面積・形状	45,000m ² (4.5ha) (300m×150m)	建設工事開始時
		造成・擁壁	敷地高低差	極力平坦であること	建設工事開始時
		地盤	地盤性状	極力地盤が固く、支持層が浅いこと	建設工事開始時
			土壌汚染	汚染がないこと	建設工事開始時
		その他	土中障害・遺跡	遺跡がないこと、障害が極力ないこと	建設工事開始時
			高さ制限	建設工事に支障のない高さまで上空が使用可能なこと	建設工事開始時
		立地規制	水素システム設置にあたり都市計画法や工場立地法等の支障のないこと	確認申請・高圧ガス事前協議時まで	
法的規制による周辺条件制限	高圧ガス保安法に基づき離隔距離	確認申請・高圧ガス事前協議時まで			

○太陽光発電

基本要件	
項目	要件・仕様
面積	360,000 m ² (36 ha) (600 m × 600 m)
容量	20 MW
スケジュール	2017年9月からの設計事業開始を想定
用地条件	
項目	要件・仕様
必要とされる要件	<ul style="list-style-type: none"> 水素システムとできるだけ近いこと 建築資材等の搬入が可能な接道があること 極力平坦であり、土壌汚染・地中障害・遺跡が無いこと 設備を備え付けるために必要な地盤強度を有していること ※ 備え付けに際して山を削る等の作業を要する場合には、整地のための追加的な時間が必要